

第3回 川之江地区まちづくり推進会議 協議概要

開催日時	平成26年5月19日(月) 19時30分～21時00分		
開催場所	四国中央市川之江文化センター4階 視聴覚室		
公開／非公開	公開	傍聴者	(一般) 0名 (報道関係者) 1名
出席者氏名			
(委員)	石川定男, 大西誠治, 梶原洋充, 篠原裕和, 中田邦志, 長野光正, 松村英典, 真鍋博, 森川隆, 矢野強		
(事務局)	喜井孝志, 三崎敦夫, 岩崎恒明, 篠原智美, 薦田仁志		
(支援事業者)	ランドブレイン(株)広島事務所 八木, 鈴木		

会議の内容

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 川之江地区まちづくり実施計画について
(議事)
 - * 今後の事業の進め方について
 - * 川之江地区まちづくり実施計画(試案)について
 - * 意見交換
 - * その他
4. 閉会

協議の概要

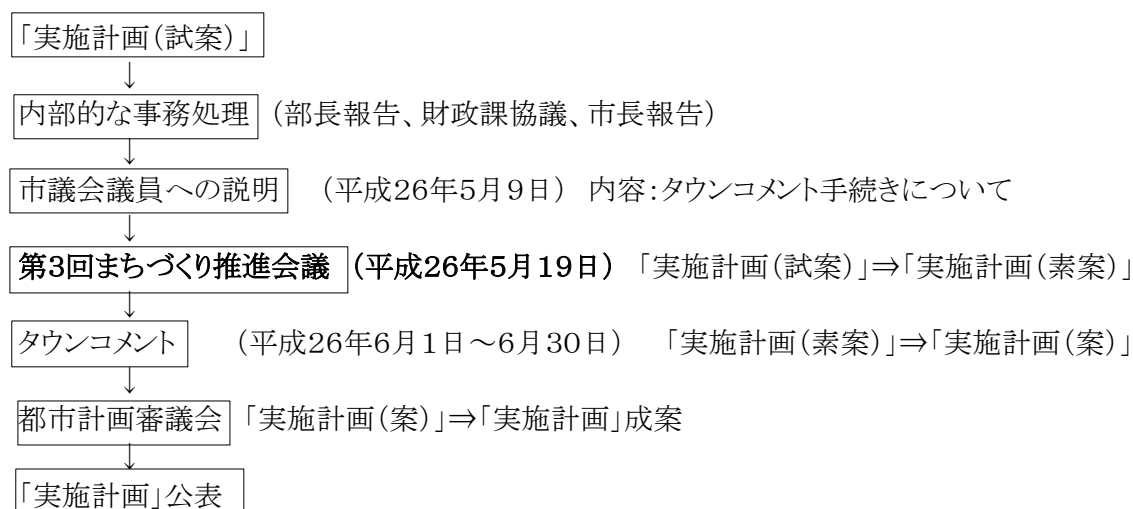
1. 議事
 - (1) 今後の事業の進め方について
(「事業化に向けてのフロー」<資料1>)

事業化に向けてのフローに基づき、平成25年度事業と平成26年度事業の流れについて説明を行った。

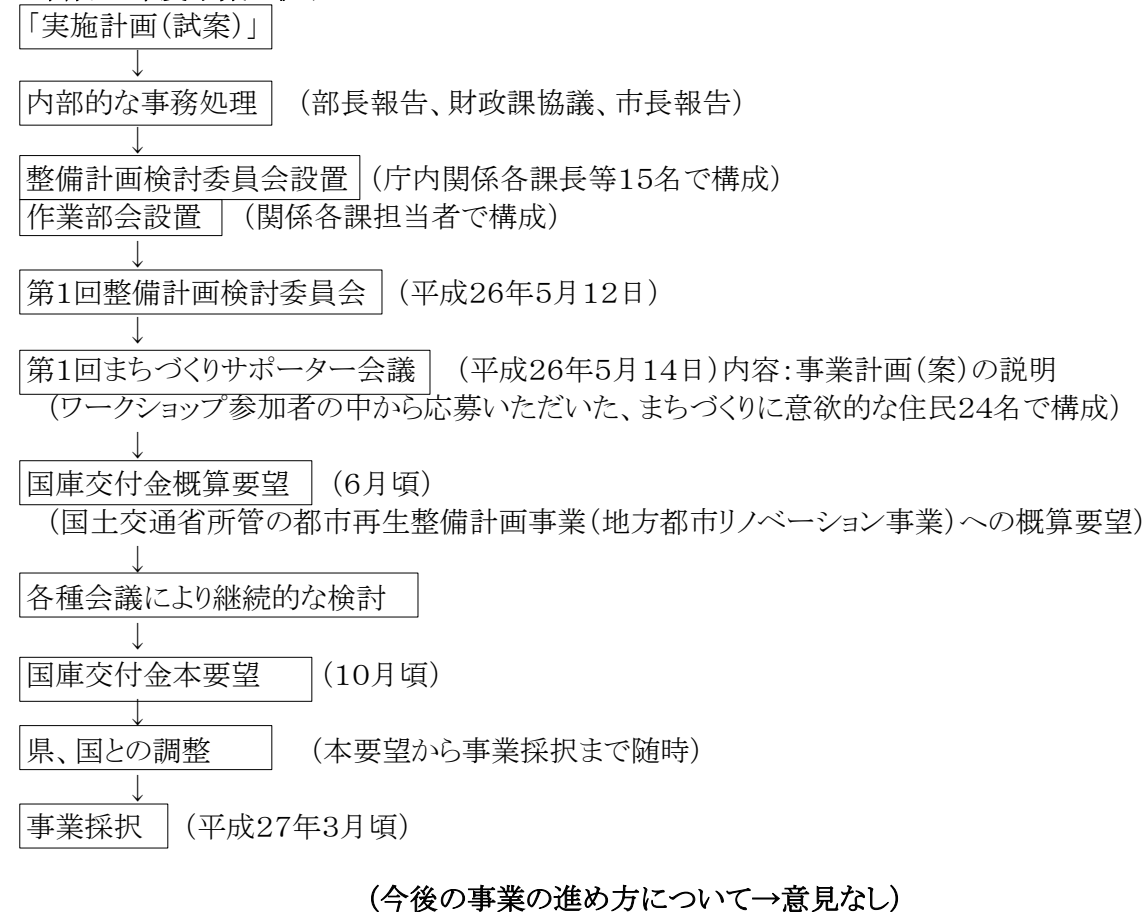
○平成25年度事業の流れ

これまでに以下の会議を開催し、「川之江地区まちづくり実施計画(試案)」を取りまとめた。

- ①まちづくりワークショップ(全4回):参加登録者55名
- ②まちづくり推進会議(2回):委員15名
- ③庁内プロジェクトチーム会議(7回):庁内関係各課職員17名



○平成26年度事業の流れ



(2) 「川之江地区まちづくり実施計画(試案)」について

- (「川之江地区まちづくり実施計画(試案)」 <資料2>)
- (「事業イメージ図」 <資料3>)

これまでの住民意向を踏まえ、市の庁内プロジェクトチームが作成した実施計画(試案)及び事業イメージ図を提示し、その考え方等について事務局より説明を行った。

(説明概要)

【川之江地区まちづくり基本計画の振り返り】

【平成25年度ワークショップ(全4回)の振り返り】

【実施計画】

* 基本計画で必要な統合整備機能と整理された3つの機能に対する事業提案

「地域交流施設」……川之江会館エリアに地域交流センター

「文化・観光拠点」……高原ふるさと館エリアに高原ふるさと館と考古資料館を統合した博物館

「公園・広場」……城山公園エリアにスポーツ&レクリエーション施設

川之江公民館エリアににぎわい広場

JR浜田踏切付近にポケットパーク

* 歩行者安全対策……各拠点間のルート化、歩行空間の高質化

* 道路整備……側溝改良による道路幅員の有効化、歩道フラット化

* 案内サイン整備

* JR川之江駅前広場修景改修

* 川之江保育園改築

* 川之江小学校放課後児童クラブ整備

(3) 意見交換

A委員	考古資料館、高原ふるさと館の整備イメージは大体このようなものになるのか？高原ふるさと館は資料の収蔵庫がない。収蔵庫を是非作って欲しい。
事務局	担当課と協議をしながら形にしてきたが、これで確定というものではない。隣接して整備する考古資料館機能の部分とふるさと館本館の部分との連結については、もう少し工夫すべきと考えている。高原ふるさと館、考古資料館の収蔵を含めてスペースをとっていききたい。
B委員	まちづくりサポーター会議が先週開催されたが、貴重な意見が多くあった。地域交流センターの駐車場が、今の計画(案)では非常に少なすぎるという意見や高齢者が杖をついたり、押し車を押して歩けるような十分な歩道の広さと安全性を確保してもらいたいという意見、また歩くだけでなく自転車でも回遊できればという意見など。 子どもからお年寄りまでが、上手く融合でき、回遊でき、便利で楽しいまちづくりができるといい。
C委員	地域交流センターの駐車場が少ないという問題は、JRの官舎跡地を臨時的な場合のみ借りればいいのか。城山公園運動場のところに無断駐車があるようだが問題は生じないのか。
事務局	再整備をすることを機会として解消を図りたい。
C委員	川之江保育園建替え事業について、保育園と幼稚園が隣接してあるために毎朝道が渋滞している。歩道があっても、高齢者など車道にはみ出て通行している。車は車、歩道は歩道と分けることはできないのか。せつかく新しく整備するならばそういう問題点も検討すべきではないか。
D委員	市民グラウンドの整備について、イメージ図とおりに整備した場合の維持費は計算しているのか？インドアドームなどいいと思うが、公共が整備する施設は使用料が安いので維持管理費まで捻出できないと思うが。
事務局	本当に必要な機能かどうか、今年度検討していく必要があると考えている。
D委員	インドアドームは、あればイベントが雨で中止になることもないのでいいと思うが。
E委員	地域交流センターの駐車場の問題は解決してほしい。最終的な部屋の機能、例えばこんな部屋が欲しいという検討は、施設関係者等で検討できるのか。
事務局	ぜひ施設関係者に相談に乗って欲しいと考えている。
F委員	何かを生み出すという発想、安いレンタル料ではなく、例えばフットサルやテニス教室などのレッスンをを行うことによる収益施設が中心にあれば、維持管理についても考えやすいのでは。 駐車場は本当に大きいものがあると思う。中途半端になった事例は多い。思い切ってグラウンドと駐車場だけにするというのも一つの案ではないか。 持続可能なまち、活性化というのは結局どういうことか？ 計画全体は確かにすごいが、活性化の起爆剤として何か必要ではないかと思う。
事務局	持続可能なまちというのはあくまで国土交通省のまちづくりの考え方。都市機能を集約させれば機能を求めて人が集まり、集まることで賑わいが生まれるという考え方。 起爆剤となる取り組みは、市民との協働作業で進める必要があると思う。
G委員	高齢者が増えていく時代の中で、どうすれば川之江地域を活性化していくのかを考えると高齢者対策が重要だと思う。商店街の問題としても、店主の高齢化、後継者不足がある。空き店舗対策は何年も前から取り組んでいるが、店舗だけという建物が少な

	<p>く、住居兼店舗で中で生活をしており、店舗部分だけを貸すということが難しい。</p> <p>公民館跡地は商店街の最大の活性化に繋がるような活用を検討していただきたい。</p> <p>駐車場は商店街にとっては命綱という状況、駐車場は確保していただきたい。</p> <p>地域交流センターが川之江会館にできた場合、車でのアクセス道として国道11号線か、塩谷小山線しかない。もう少し利便性を考えて、例えば広島銀行の西側の道の一方通行を逆にする等、検討をしていただければより施設の機能性が上がるように思う。</p>
H委員	<p>紙のまち資料館は川之江地区だけの施設ではない。たまたま使えるからとそのまま残しておくのはどうかと思う。もっと広い視点で見えていないとこれが今度は足かせとなって、地域交流センター全体の配置を考える際、非常に残念な結果になるのではないかと思う。</p> <p>紙のまち資料館から考えると企業の意見はどうなっているのか、それが抜けているのではないかと感じた。企業へのヒアリングなどぜひ行っていただきたい。誰が何の目的で利用するのかという点では、紙のまち資料館はこの中で検討するには若干別物という気がする。紙産業技術センターや近々整備される愛媛大学のリノベーション施設に集約移転するのが、誰が考えても自然な発想なのではと思う。</p>
I委員	<p>道幅を広げる案として側溝改良をするとあるが、もっと根本的に、この道路は拡幅する必要がある、そのためにはどうしたらいいのか考える必要があると思う。今あるものを利用してというのではなく、もう少し根本的に改良するということを考えていかなければならないのではないかとと思う。</p> <p>道路は平面的に考えず、立体的に考えることが必要ではないか。将来に向けて立体的に考えて検討していただきたい。</p>
事務局	<p>紙のまち資料館の件は、今回の整理では継続利用する施設となっているが、将来的には紙産業技術センターとの連携を含めて考えていくべき課題だと考える。ただ、今回のような5年間で実施する短期的な計画では難しく、長期的な課題として整理させていただきたい。企業とのヒアリングについては実施を検討していきたい。</p>
事務局	<p>立体的に道路を考えられないかという件について、そういった案は出ている。JRで東西が分断され、交流の妨げになっていることから、平面交差でなく高架や地下という方法は取れないかという検討も行っている。</p> <p>歩行者だけでも通路的なものを整備できないかと検討も行ったが、整備費が約10億円ほどかかることから、今回の5年間の計画では難しく、長期的な課題として整理させていただいている。</p> <p>道路整備は側溝改良だけでなく全面的に実施すべきという件については、都市計画道路の整備も含め進めていかなければならないと思っているが、大きな道路網の見直しの中で検討していきたいと考えており、これについても長期的な課題と整理させていただいている。</p>
J委員	これは川之江地区のまちづくりということでもいいか？
議長	この実施計画(試案)はそういうこと。ただスポーツ関係の整備などは市民全体が利用する施設であり、また地域交流センターもそこそこの規模の施設となれば広く使われるようになるのではないかと。
J委員	四国中央市には郷土資料館のようなものが2つある。高原ふるさと館と土居地区に暁雨館。一方で三島地区や新宮地区には郷土資料館がない。市内の歴史資料は全部高原ふるさと館へ、暁雨館には市の偉人の資料を集めた人物資料館にしてはどうかと思う。そうすれば、1つの市に同じような資料館が2つあるということはなくなり、三島、新宮地区に資料館がない問題も解消されると思う。こういうことを考えて高原ふるさと館を整備していったらどうか。
事務局	例えば、理想は市街地は1ヵ所にまとめて省力化することだと思うが、考え方によってはそれぞれの核となる市街地に必要な機能があり、JRやバスで市街地間を移動するこ

とで、市民がそれぞれを楽しみ、違う文化に触れてもらうということができないのではないかと思う。全てを集約という考え方もあるが、核となる市街地や施設間を繋ぐという形も大きな流れの中ではあるように思う。すぐには結論が出るものでなく、いろいろな考え方の中で時間はかかると思うが、市として検討していかなければならないと思う。

(4) その他

(事務局より)

今年度は実施計画の整備事業を実現させるために、都市再生整備計画を作成し、次年度からの交付金事業の採択を目指したいと考えている。

まちづくり推進会議は、実施計画の成案をもって解散となるが、事業の採択を目指すにあたって、調整により事業内容に変更が生じた場合は、住民の皆さんに対して説明を行ったり、それについて意見交換を行う組織が必要になると考えている。これまでの検討経過をご存知の委員の皆さんにも引き続き参画をお願いするかもしれないが、その際はぜひともご協力をお願いしたい。

以上

(注) この会議録中の委員表記 (A委員、B委員・・・) は発言順にアルファベットを付しており、次回以降の会議録における委員表記と整合するものではありません。